

1 校訓

自立・協力・忍耐

2 学校教育目標

「自ら考え、正しく判断する力をもち、健康でたくましく、人間性豊かな生徒の育成」

3 めざす生徒像・学校像・教師像

(1) めざす生徒像

- ① 心身ともに健康でたくましい、自立した生活ができる生徒
- ② お互いの特性を理解し、連帯し、協力・協働する生徒
- ③ 自らの持つ力を信じ、伸ばし、発揮させようと忍耐強く努力する生徒

(2) 学校像「琴海中学校でよかった」と実感できる学校

- ① 自らの成長が実感できる学校（生徒）
- ② 子どもたちが安心して生活し、努力が正当に評価される学校（保護者）
- ③ 学校にあふれる活気を地域に還元できる学校（地域）
- ④ 自らの特長が生かされるとともに、指導力の向上が実感できる学校（職員）

(3) 教師像

- ① 生徒一人一人を大切にする教師
- ② 教育愛をもち、教育者としての自覚をもって実践する教師
- ③ 協働して、指導力を高め合う教師（チームとして個として）

4 教育方針

<知・徳・体の調和が取れ、生きる力を持つ生徒の育成>

(1) 「琴海中でよかった」

- ① 生徒にとって、学んでよかったと思える学校とは、自らの成長を実感できる学校であり、努力が報われることが実感できる学校である。
- ② 保護者にとって、任せてよかったと思える学校とは、「わが子が安心して生活し、心身ともに健やかな成長を実感し、正当に評価されていると感じる学校」である。
- ③ 地域にとって、あってよかったと思える学校とは、生徒が元気に活動し、それが地域の活気につながる学校である。
- ④ 教職員にとって「この学校でよかった」と思える学校とは、全職員のチーム力で、生徒を成長させていくことを通して、成果を実感するとともに、自らの個の指導力の向上を実感できる学校である。  
生徒・保護者・地域の信頼関係を得て、また、職員相互の信頼関係を基盤に、教育方針の実現を目指す。

## 5 教育理念

### (1) 「めざす生徒像」の具現化のために

#### ①自立できる生徒を育てるために

自立するとは、自らの中に規範を持ち、それに従って行動をコントロールできることである。そのために、まず規範意識を定着させ、さらに周囲に流されたり、自ら妥協してしまったりする弱さと戦う内面的な強さを身につけていなければならない。

#### ②協力するとは、二人以上の個のもつ力を結びつけることである。そのために、各自の意見を伝え合い、調整し合うというコミュニケーション能力（対話的学習）が基盤として必要不可欠である。

さらには、単に一つの作業に全員で取り組むのではなく、一つの目的のために各自がそれぞれの役割を果たすこと（協働）である。そのためには、自己の持ち味を自覚し、他者の持ち味を尊重することが必要である。

#### ③忍耐力を身に付けさせるということは、単に耐える精神力をつけることではない。問題の本質や解決のための手段を身につけ、見通しをもちつつ、それらを試行錯誤しながら根気強く目標に向けて取り組む姿勢のことである。

### (2) めざす教師像・学校像の具現化のために

#### ①教育効果を上げるための根幹＝信頼関係

信頼なくしては、いかなる指導技術も言葉も生徒の心には響かない。信頼を得るため、次のことを意識したい。

(ア) 日々研究と修養に励み、個の指導力を高める努力を怠らない。

※教育のプロフェッショナルとしての自負を

(イ) 服務規律の順守

体罰、わいせつ、各種ハラスメント、公金の不正他の信用失墜行為ゼロ。

※自らの破滅に家族、同僚を巻き込む行為は厳に慎むべし

#### ②信頼される評価を行うために

評価については、生徒一人一人の成長と努力への評価を本人に返すことを意識することで、生徒各自の自己肯定感の向上につなげる。

生徒は失敗して当然である。それに対する指導が、内容によって変わるのは当然である。ただし、単に感情をぶつけるのではなく、次の成長につなげる真の「指導」を心掛けたい。

◎努力を誉めれば努力する子に、結果のみほめれば失敗を恐れる子に

◎「お・ひ・た・し」を管理職→職員にも、職員→生徒にも

(怒らない、否定しない、助ける、支持する)

#### ③チームで対応

個に頼った指導は、一人が欠けただけで破綻をきたす不安定なものである。また、単一視点の判断では適切な判断ができないことも多い。

報告・連絡・相談を確実にいき、情報共有を共通実践につなげる。

これを基盤に、各自の持ち味（強み）を生かし合う、チームとして機能する教職員集団を目指す。

※持ち味…自分にとって苦にならないこと＝得意なこと

#### ④常に改善と向上の工夫を意識

改善とは、

(ア) 同じ負担でより高い効果を

※個々の生徒の向上だけでなく、対応範囲を広げることも改善

(イ) 同じ効果をより少ない負担で